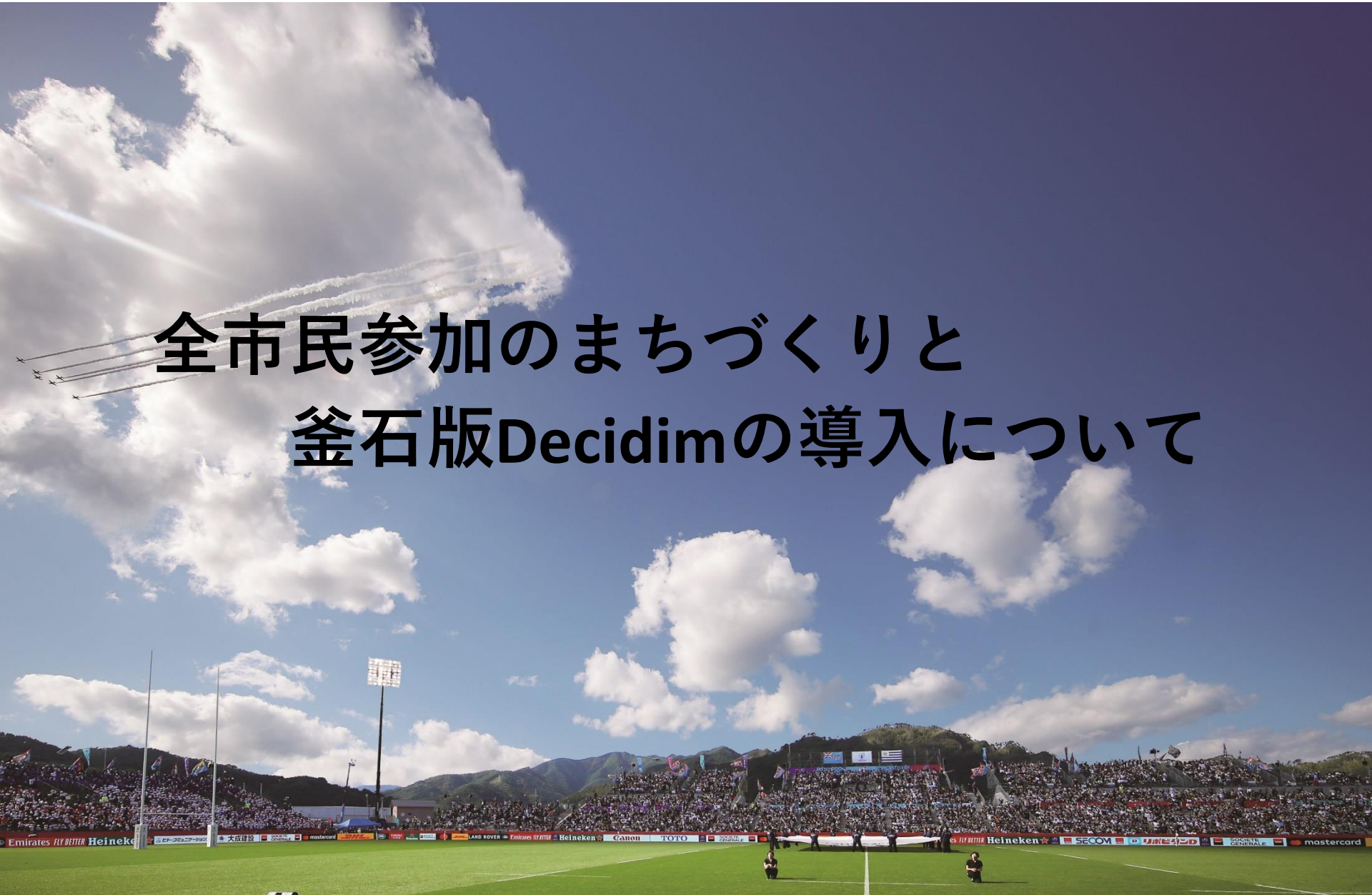




全市民参加のまちづくりと 釜石版Decidimの導入について

釜石市 総務企画部 総合政策課 DX推進室

主任 佐藤 政弘

目次

イントロ) 釜石市の概要

1) 全市民参加のまちづくり

3) 釜石版Decidim

4) 釜石市のDX

釜石って こんなまち



鉄と魚とラグビーのまち。
海と山に囲まれた、自然豊かだけど、
田舎すぎないちょうどいいまち。



海と緑に囲まれた鶴住居復興スタジアム



世界遺産「橋野鉄鉱山」



世界三大漁場「三陸」

- 安政 4(1857) 盛岡藩士大島高任が、我が国初めての洋式高炉を建設
- 昭和60(1985) 新日鐵釜石ラグビー部 V 7 達成
- 平成元(1989) 新日鐵(株)釜石製鐵所の第一高炉が休止
- 平成21(2009) 過疎地域に指定される
- 平成23(2011) 東日本大震災により壊滅的な被害を受ける
- 令和元(2019) ラグビー・ワールドカップ® 2019™ 日本大会岩手釜石開催

⇒ 紆余曲折があるも、
釜石にしかない「まちの魅力」がある！

第六次釜石市総合計画の策定

- 東日本大震災から10年が経過し、復興の完遂と新たなまちづくりの最高指針となる総合計画を策定



- 計画期間
令和3年度から令和12年度（10年間）
- 目指すべき将来像
一人ひとりが学びあい 世界とつながり未来を創るまちかまいし
～多様性を認めあいながらトライし続ける不屈のまち～
- 計画の素案作成にあたり
公募により募った20代～80代の市民62名により「かまいし未来づくり委員会」を発足。延べ20回以上のワークショップ等で議論を行った。



第六次釜石市総合計画推進のために

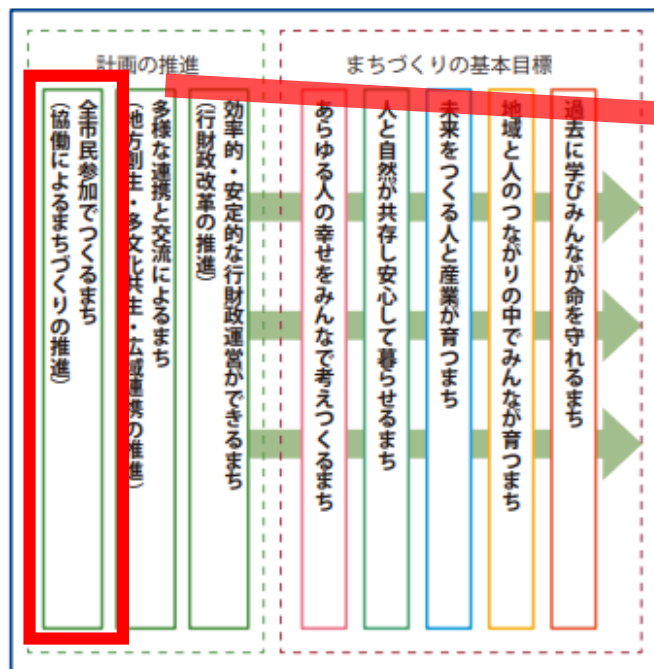
- これからのまちづくりは、行政主導ではなく、多様な主体が主導で行う必要があることを実感し、計画の推進の一つに、「全市民参加でつくるまち」という柱が加わる。

まちづくりの基本方向の体系

一人ひとりが学びあい

世界とつながり未来を創るまちかまいし

～多様性を認めあいながらトライし続ける不屈のまち～



計画の推進

復興まちづくり基本計画の成果や課題を踏まえ、基本構想を推進し、将来像を実現していくためには、少子高齢化と人口減少、市民ニーズの多様化、厳しい財政状況などを踏まえながら、取組を進めていく必要があります。

このため、第六次釜石市総合計画においては、市民と行政による協働のまちづくりを進めるとともに、相乗効果を生む多様な連携と交流の推進を図り、徹底した行財政改革を進め、社会情勢や経済状況の変化に対応できるまちづくりに努めます。

全市民参加でつくるまち ～協働によるまちづくりの推進～

全ての人がまちづくりに参画し、希望にあふれたまちを目指すため、これまで築いてきた各地区応援センター及び地域会議を中心に、自助・共助・公助による地域づくりを一層推進します。また、行政、企業、職能団体、NPO、市民団体等多様な主体がそれぞれの価値観・役割に応じて、テクノロジー*等も活用しながら、まちについてともに考え、ともに活動する環境の構築を目指します。

全市民参加に対する課題

- 全市民参加のまちづくりためには、様々な市民のニーズや意見が見える化し、様々な主体が役割分担を行いながら活動する必要がある。

⇒ 既存の会議等は、一部の固定化された者のみの参加に留まっている傾向がある。

⇒ それぞれのライフスタイルが異なる中、どのような議論の場があればよいか？

「シビックテック」という活動

- 釜石市の外部アドバイザーから、「シビックテック」という考え方があること、一般社団法人コード・フォー・ジャパンなどが活動を行っているという情報を知る。

⇒ オンラインで議論をするツールとしての「Decidim」を知る。

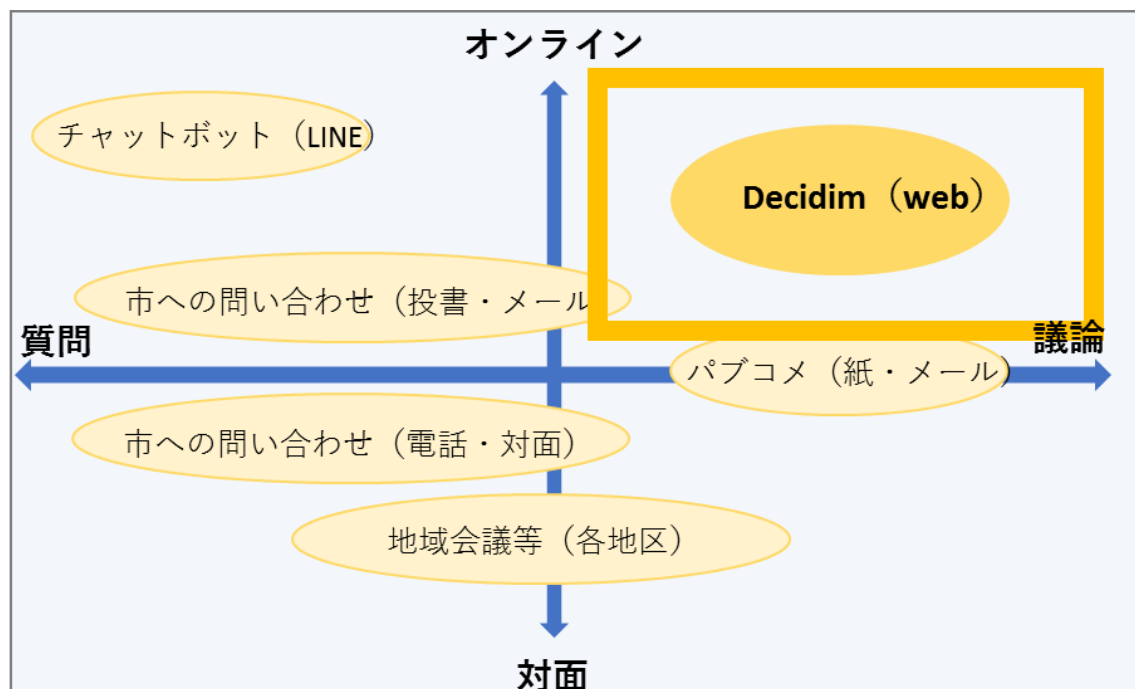
(※ シビックテックとは：市民自らがテクノロジー等を活用し、地域課題を解決すること)

⇒ **点と点がつながり、釜石版Decidimの検討開始**

Decidimとは

- ・スペインバルセロナで誕生し世界各国で活用されている**オープンソース(誰でも使える)ソフトウェア**
- ・日本では、一般社団法人コード・フォー・ジャパンが、80を超える全国の民間団体や、10を超える自治体のハブとなり、システムの導入や、地域行政の課題解決へ向けに取り組んでいる。
- ・オンライン上で誰でも・いつでも**アイデアの募集**などが可能。また、**他の人のアイデアを見て、賛同するアイデアへの投票や、追加のコメント**が可能。
- ・複数のスペース(コンポーネント)を活用することで、**意見の募集・集約プロセスを繰り返す**ことが可能。

市の他のツールとDecidimの位置付け



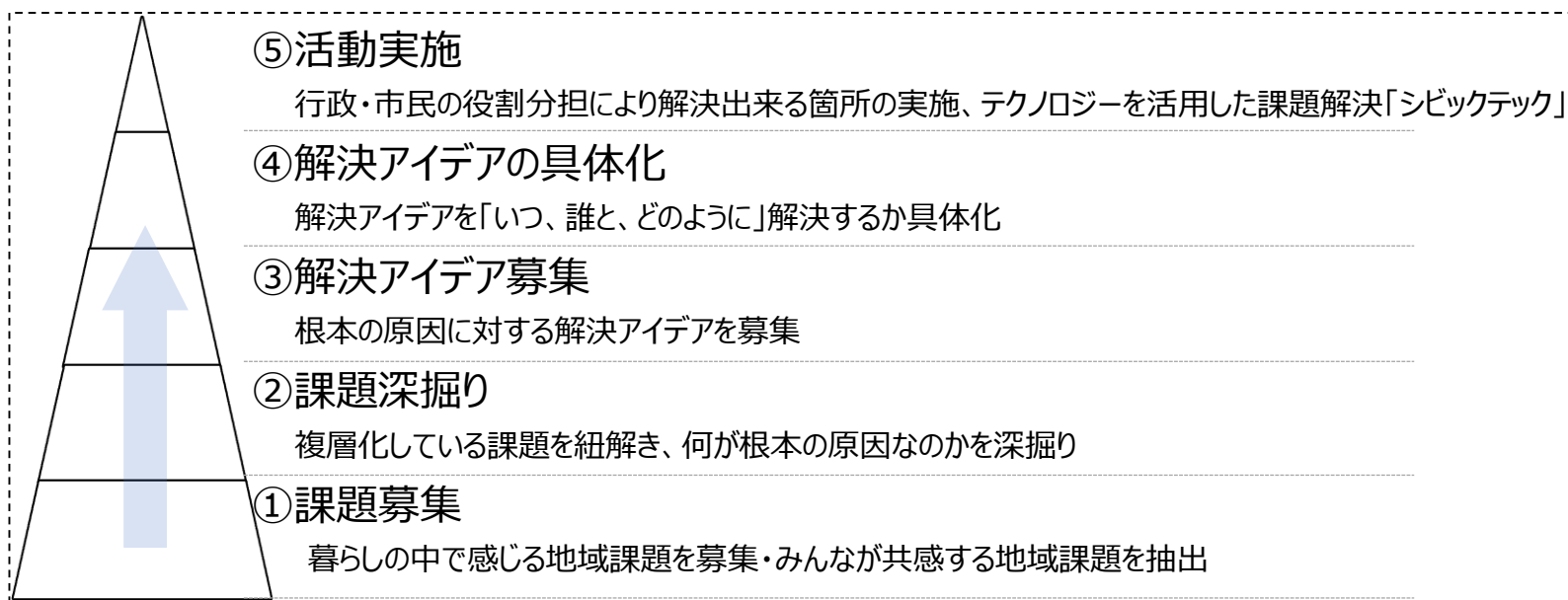
「議論,オンライン」部分をカバーし、他のツールと連携・役割分担を行うことで全世代の意見を集めるとともに、市民の主体的な活動につなげる。

釜石版Decidimの目的

「全市民参加でつくるまち ～協働によるまちづくりの推進～」

⇒ 従来どおりそれぞれの持ち場で活動 + まちづくりについて「ともに考え、ともに活動する」環境

「ともに考え、ともに活動する」5つのステップ



釜石版Decidim③



Future Creation
KAMAISHI CITY

名称

まちづくり参加スペース 「ともに考え、ともに活動する」釜石版Decidim

アクセス

釜石市HPトップページからアクセス。市へのお問い合わせと併記し、役割分担。



○Decidimトップページ



○ホーム

- ・ Decidimの概要説明
- ・ 使い方ルール
- ・ 稼働中のスペース表示

○計画等に対する意見

- ・ 単一テーマ
- ・ 市が市民のニーズやアイデアをもらいたい内容

○参加スペース

- ・ 意見の発散・収束を繰り返すテーマ
活用例：
課題募集⇒解決策検討

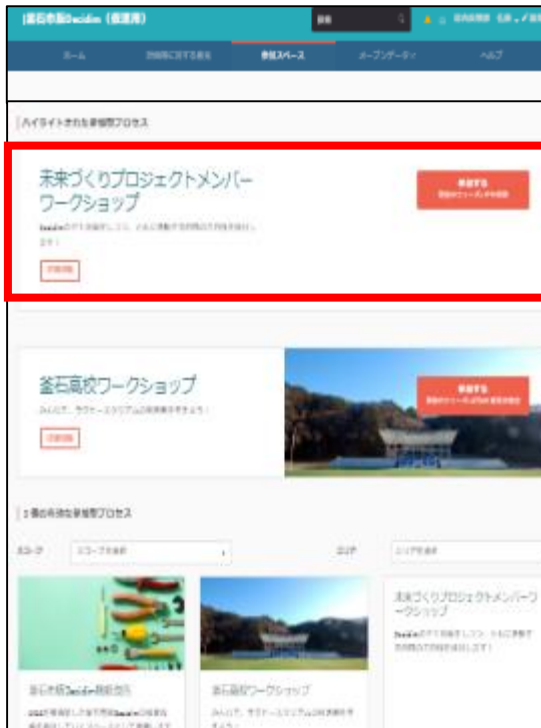
○オープンデータ

- ・ 釜石市が公開しているオープンデータを可視化（データ自体は市HPに掲載）

○Decidim : 「参加スペース」レイアウト



<各スペーストップ画面>



<各テーマトップ画面>



<各ディベートトップ画面>

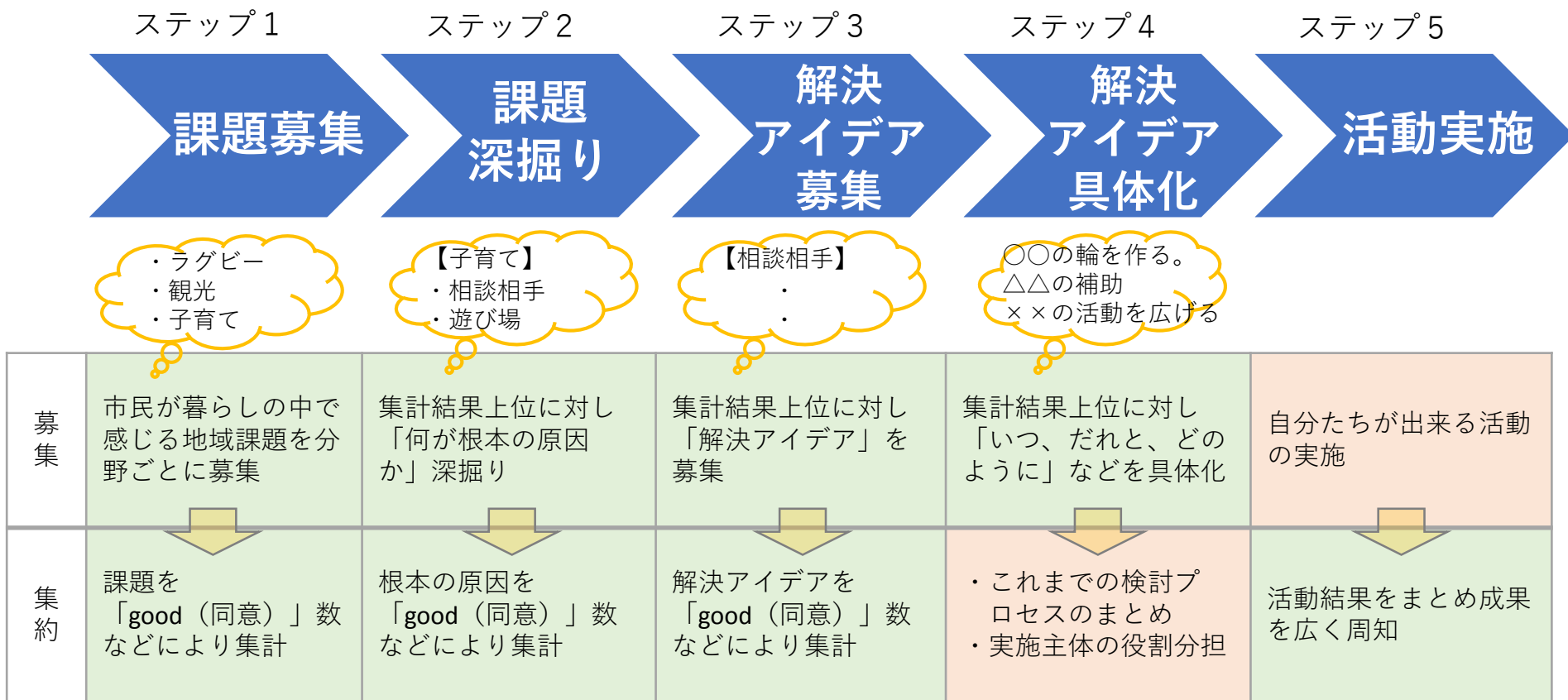


- ・テーマごとに1つのスペースを作成
- ・スペースは任意の数を作成
- ・過去の議論はいつでも閲覧可能

- ・テーマごとに任意の数のディベートを作成

- ・登録した方のみコメント書き込み可能
- ・閲覧は誰でも可能

○まちづくり参加スペース 釜石版「Decidim（デシディム）」活用フロー



緑：オンライン（Decidim）

赤：対面（かまいし未来づくりプロジェクト等）

①子育て 10票
②ラグビー 5票
③観光 3票

①相談相手 10票
②遊び場 5票

①
②

市 ⇒△△補助
民間⇒××活動

○Decidim上（オンライン）で寄せられた

☆テーマ：防災をみんなで考える取組のアイデア

解決アイデアの募集結果

防災市民憲章を確認する機会を増やす

ベストアイデア

鵜住居公民館では行事開催前に市民憲章を唱和している

片岸の自主防災組織で行っている備蓄倉庫、避難経路、避難行動要支援者を他地区へ波及。

学校の防災訓練に地域も巻き込む

行政無線で防災の日や過去の災害の日などを放送

防災学習を兼ねたイベントの開催

韋駄天競争のようにして避難文化を後世に残す

災害備蓄品のローリングストック頒布会を開催する

愛の鐘の代わりに子どもたちに朗読してもらう

被災地域の地域会議から各町内会へ協力依頼

地域のサロンやサークル活動に協力呼びかけ

高校生が有志で伝承に取り組む夢団などと協力し地域で継承活動

解決アイデアの具体化

○Decidimとかまいし未来づくりプロジェクトで出されたアイデア

オンラインのアイデアに、更なるアイデアを追加するとともに、具体的な役割（行政、民間、未来づくりPJ）を検討

○出されたアイデアに基づく今後の取組

【取組の方向性】

- ①防災意識を高めるよう、あらゆる機会を通じて意識づけを行う必要がある。
- ②釜石市防災市民憲章を確認する機会を増やし、普及を図る必要がある。
- ③町内会等地域との連携は不可欠

【具体的取組】

- ①防災市民憲章の唱和
 - ・かまいし未来づくりプロジェクト開催時に防災市民憲章の唱和を実施
 - ・市戦没者追悼式の際に憲章の唱和を行うなど市の催しでも実施
- ②防災学習を兼ねたイベントの企画・実施
 - ・防災に関するイベント、ワークショップの企画・実施（民間・行政）
 - ・各種イベント時の防災ブースの設置を市防災危機管理課に働きかけ
- ③町内会との連携の一層の推進
 - ・自主防災組織創設に向けた地域との取組
 - ・津波避難所等の地域での運営に関する取組を実施

○Decidimのアイデア募集結果まとめ

■登録者数推移

日 付	R4/4/22	R4/6/7	R4/8/30
登録者数	24	54	80
内、市外在住	5	15	22

■アイデア募集結果

【令和4年3月30日～4月30日、5月20日～6月19日】

地域課題解決へ向けた 6つの取組のアイデア募集で寄せられたアイデア

<内訳>

年齢分布	市内	市外	小計	割合
10代	2	0	2	2.5%
20代	6	10	16	20.0%
30代	9	2	11	13.8%
40代	13	5	18	22.5%
50代	13	6	19	23.8%
60代	8	3	11	13.8%
70代	0	0	0	0.0%
80代	0	0	0	0.0%
不明	3	0	3	3.8%
小計	54	26	80	100.0%

就労世代が全体の80%

テーマ	コメント	Good	ベストアイデア
若者のチャレンジを応援する取組	9	23	「いいね」と応援する仕組みづくり:good 7
子どもの居場所をつくる取組	11	24	無料かつ安全にいられる場所づくり:good5
祭り・イベントの地域の担い手を育成する取組	5	4	担い手の想いの発信:good2
防災をみんなで考える取組	9	11	釜石市防災市民憲章を確認する機会増の取組:good4
釜石の魅力を学ぶ・発信する取組	6	8	釜石らしい釜石のあたたかさの発信:good5
会社・釜石への定着に向けた取組	15	25	奨学金を肩代わりする制度:good5
合 計	55	95	

釜石市デジタル化・DX推進の取組

- 令和3年度に、総務課主導で「釜石市DX基本計画」策定
- 令和4年度に総合政策課内に「DX推進室」を設置

⇒ Decidimを含め、釜石市のデジタル化やDX推進に取り組み始めている。



【令和4年度の取組】

- ・転入などの際にたくさんの申請書を書く負担を軽減する「**書かない窓口**」
- ・住民向け**AIチャットボット**導入
- ・庁内業務の効率化、市民対応の即時性向上へ向けた**庁内ポータルサイト及びプラットフォーム**の構築
- ・住民向け**スマホ体験会**の開催

【令和5年度の取組（予定）】

- ・デジタル行政サービスの共通の玄関口となる**スーパーアプリ**構築
- ・**健康アプリ**、**子育てアプリ**等の導入
- ・**オンライン申請**のためのプラットフォーム構築
- ・庁内業務の効率化、ペーパーレス化へ向けた**文書管理・電子決裁システム**の構築
- ・住民向け**デジタル相談会**の開催



ご清聴ありがとうございました。

人口3万人、高齢化率40%の小さなまちですが、
他の地域の取組などから学びながら、一歩ずつ前進します。

釜石市 総務企画部 総合政策課 DX推進室
主任 佐藤 政弘